

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校では、2006年のD-ESDの開始当初より、「ESDの理念に基づく学校づくり」を研究テーマに掲げ、全教科・領域にわたって「ホールスクール・アプローチ」として教育実践を継続し、一定の成果を挙げることができた。そこで昨年度からの2年間は、昨今の子どもを取りまくさまざまな課題をこれまで培ってきたESDの価値観を基に解決すべく、「開かれた関係を築くコミュニケーション能力の育成～ナラティブ・アプローチによる子ども理解から協働の問いの創造」を研究テーマに、子どもたち一人一人の学びの成長をみとりながら、共に豊かに生きる社会を構築する人間を育むべく実践研究に取り組んでいる。その中から次の4点について報告する。

①ホールスクール・アプローチとしてのESD活動の推進

ESDカレンダーに基づいて各教科・領域をつなぐ学習として、「世界遺産教育としての奈良めぐり（3年間で5回）や京都への社会見学」、「地域の文化や環境からグローバルな視点を獲得するための臨海学習」「平和・人権・民主主義やくらしと環境について学ぶ沖縄修学旅行」を核として、教科間連携をしながら取り組んでいる。また、ESDの学びの集大成としての「平和の集い」を生徒が主体的に実施している。こうした協働の学びはもとより、各教科の学習においても生徒のナラティブ変容を追いながら、学びの深まりを確認しながら取り組んでいる。

②ICT教育

ESDに取り組む学校としてふさわしいメディアリテラシーとはどのようなものなのかについて研修しながら、協働の学びに役立つICTのあり方や、ICT活用の評価についての実践研究を継続している。

③ESDの価値観を大切にした道徳教育の充実

「特別な教科 道徳」の実施に合わせて、これまでのESDの学びが道徳教育にどのように位置づくのか、新学習指導要領を基に、市民性教育や平和教育、人権教育などとの関連を研究しながら、新たな道徳学習計画の立案をめざして実践研究を行っている。

④国際交流

平成24年度から行っている韓国（公州大学附設中学校）との交流活動を本年度も実施し、本校生徒6名が夏に韓国を訪問し、冬には韓国生徒が奈良を訪れた。1年生の国際理解学習とからめた事前学習や、歓迎行事の取り組みなど、全校生徒が参加し交流を深めることができるように工夫して行っている。

成果として、子どものナラティブ変容を追うことによって、子どもの発見やつぶやきを丁寧にひろうことから、子どもが自ら新たな「問い」を立て、その「問い」が次の学習課題として発展していくような、まさに「アクティブ」な学習が少しずつ展開できるようになってきている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）